

特別展

あ ま か け
天翔る 飛鳥
あ す か
鳥頭尾精の世界



《蘇る朱雀》2017 奈良県立万葉文化館蔵

2025 7.12(土) - 9.15(月)(祝)

【開館時間】 10:00 ~ 17:30 (入館は17:00まで) 【休館日】 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌平日)
【観覧料】 一般 1000 (800) 円、高校・大学生 500 (400) 円、小・中学生 300 (240) 円
※○内は20名以上の団体割引。 ※国内の小・中学生、高校生、18歳未満は無料。
その他割引は万葉文化館までお問い合わせください。
【主 催】 奈良県立万葉文化館 【後 援】 明日香村 明日香村教育委員会



奈良県立万葉文化館



万葉文化館
manyo



飛鳥・蘇我
Asuka-Fajina

画業70年 あすかとともに

《天翔る鳥》部分 1977
奈良県立万葉文化館蔵



《あすか・夏》2022 個人蔵

《まほろばに飛ぶ》1979 奈良県立美術館蔵



《夏蒼天》2023 個人蔵



《とり》1959 名都美術館蔵



「秋蒼天」制作風景（2024）

明日香村出身の画家で満 93 歳になる現在まで精力的に作品制作を続ける鳥頭尾精。本展覧会では、16年の歳月をかけて奈良や京都の古都を描いた「古都シリーズ」の最後を飾る「あすかシリーズ」が 2024 年に完成したことを記念して、奈良の古都（飛鳥、藤原、平城）を描いた作品 12 点を一挙に公開します。

鳥頭尾の描く風景画は、澄んだ色彩と穏やかな画面のなかに古代の人々の情感が漂うような画風で、その土地のもつ空気感までも感じられるようです。

鳥頭尾は、京都市立美術大学（現、京都市立芸術大学）を卒業後、美術教諭として教鞭をとる傍ら作品制作を続け、初期のころは「鳥」を多く描き、歩く鳥から飛ぶ鳥へ、そしてその鳥たちが風景の中を飛翔しはじめ、やがて古都の風景が作品の主役となっていきます。

本展では、初期から現在までの画業 70 年のあゆみをたどるとともに、長年の制作活動の裏側を垣間見ることのできる小品を数多く展示します。鳥頭尾の学生時代の緻密な模写や写生、水墨画に木版画、人体表現の素描など、さまざまな表現を追求した鳥頭尾の知られざる側面にもスポットをあてます。

関連イベント

◇対談「画業 70 年のあゆみ あすかの風土に生きて」

講師 鳥頭尾精氏（日本画家・京都教育大学名誉教授）
西光慎治氏（明日香村教育委員会文化財課課長補佐）

日時 7月21日（月・祝）14時～15時30分（開場13時30分）

定員 150名（事前申込制）

場所 奈良県立万葉文化館 企画展示室

参加無料・要申込

◇学芸員によるギャラリートーク

日時 7月13日（日）14時～（各回30分程度）

7月16日（水）15時40分～

8月20日（水）15時40分～

場所 奈良県立万葉文化館 日本画展示室

要観覧券・申込不要

対談イベントへの申し込みは
こちらから▶



【交通案内】

※駐車場に限りがあるため、ご来館には公共交通機関をご利用ください。
●近鉄線神宮寺駅西口または飛鳥駅より
両道バス（かめバス）乗車（約20分）→万葉文化館西口下車すぐ
奈良交通バス案内 お客様サービスセンター TEL：0742-20-3100
●近鉄線神宮寺駅よりタクシー（約10分）

奈良県立万葉文化館

〒634-0103 奈良県奈良市明日香村飛鳥10
TEL:0744-54-1850 FAX:0744-54-1852 HP:https://www.manyo.jp

